



国臨協関信

HPアドレス [https:// kanshinshibu.org](https://kanshinshibu.org)

令和2年1月

事務局 〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1
国立国際医療研究センター病院中央検査部門内
発行者 岩崎 康治
編集委員 若林 弘・木津谷 亮
小池 勝人
印刷所 東洋印刷株式会社
☎ 03-3352-7443



新年の御挨拶



国立病院臨床検査技師協会関東信越支部
支部長 岩崎 康治

新年おめでとうございます。

国臨協関信支部会員の皆様におかれましては、健やかに新春を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。

旧年中は皆様方から多大なるご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

現在の関信支部会員数は会費納入時660名で、その後退職者もあり656名となって、過去最高の会員数を更新いたしました。ひとえに各施設の組織力（全職員数に対する組織率81%）の賜物と感謝申し上げます。

昨年は新天皇の即位があり慶祝ムードにありました。一方で、台風15号、19号に大雨と続けざまに関東信越地方を襲い甚大な被害をもたらしました。改めて被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げますとともに、早い復旧復興をお祈りいたします。そのようななか、スポーツ界では女子プロゴルフの渋野日向子選手の全英女子オープン優勝の快挙、ラグビーワールドカップ初のベストエイトと日本中が沸きに沸いた年でもありました。今年は災害のない喜ばしいニュースだけの一年となるように祈るばかりです。

関信支部活動としましては、学術委員会活動が徐々に浸透してきた感もあり、研修会企画はもちろんのこと支部学会における分科会企画だけではなく学会運営にも携わってもらっております。また、地区会研修会への講師派遣も3地区に行うなど、今後も連携を密にしながら支部学術活動を担ってもらえるような態勢作りを考えております。

機構本部の中期計画のテーマではありませんが「変革」を意識しながら、学会運営の一部委託など新しい試みに取り組んで参りました。皆様のご意見を伺いながら、今後も継続していくか否かを検討していきたいと思っております。

少しずつでもスピーディーに且つ会員皆様のために有意義な活動を進めていくように、国臨協本部、技師長協議会、臨床検査専門職および各地区会のご支援ならびにご指導をいただきながら「関信支部 ONE TEAM」を合い言葉に、役員一同運営していきたいと思っております。また、今年の国立病院総合医学会は新潟で開催されます。それに伴う関連行事には、皆様方にご協力をお願いしたいと思います。

本年も会員皆様方にとってより一層素晴らしい年になりますことを祈念しまして、新年の挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願いいたします。



独立行政法人国立病院機構 関東信越グループ
医療担当 臨床検査専門職 北沢 敏男

謹んで新春をお祝い申し上げます。

国臨協関信支部会員の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

日頃より多くの方々から励ましの言葉やご助言、ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。また、単身赴任や遠距離通勤、ご家族揃っての転居など、ご苦労頂いていることに対して心より感謝いたします。

昨年は、日本全国で自然災害に悩まされた一年でした。関東信越グループエリア内においても甚大な被害が発生しました。日頃からのリスク管理がとても大事であることを改めて実感しました。一方、スポーツ界においては各種競技の世界大会が日本で開催され、大変感動いたしました。

さて、昨年4月から国立病院機構は新たな中期計画の下に歩み始めました。この第四期中期計画は、「変革期」と位置付けられております。質の高い医療を提供するために、各施設の臨床検査科（部）の運営方針の下、職員一人一人が考え、提案し、実践していく姿勢が求められます。既成概念に捕らわれることなく、新しい時代を切り拓いていただきたいと思います。

そして、改正医療法施行後の今年度は、「医療法第25条の規定に基づく立ち入り調査」において検査室の対応状況が精査され始めた年でもあります。これまでの経過を見ていると、国立病院機構は対応に立ち遅れることなく準備できているようです。今後とも情報収集と提供に努めていきたいと思っております。

最後になりますが、各地区会では大変お世話になりました。地区会活動が活発に行われていることを実感し、会員の皆様とお話しできたこと、大変有意義でありました。今後も微力ながら職務を全うできるよう努力して参ります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新年を迎えて

茨城地区会会長……………国 仲 伸 男



明けましておめでとうございます。会員の皆様へおかれましてはよき新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年のラグビーW杯の日本代表選手の活躍は素晴らかったですね。ラグビーファンのみならず、にわかファン（私もその一人）まで盛り上がったのではないのでしょうか。特に“ONE TEAM”といったスローガンで最後まであきらめないプレイに感動しました。

さて、茨城地区会では、昨年6月1日に第39回定期総会を開催し、今年度の事業方針および新役員の承認が得られました。同日に開催した学術研修会では、国立感染症研究所疫学センター第2室長砂川富正先生をお迎えして、「ワクチン接種の重要性とその限界」について、ワクチン接種の基本的なところからその必要性まで幅広くご講演いただき大変勉強になりました。一方、第47回関信支部学会地区会コーナーでは、茨城地区がなんと優秀賞をいただきました。各施設が“ONE TEAM”となって頑張った成果と言えます。これからも一致団結して気あふれる地区会活動ができるよう努めてまいります。

最後になりましたが、関信支部の発展と会員の皆さまのご健康とご活躍を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

栃木地区会会長……………久 間 修 平



新年あけましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。関信支部会員の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと存じます。今年も栃木地区会をよろしくお願い致します。昨年11月の地区総会において瀬下明子前会長より引き継ぎました。

栃木地区会では二施設で距離も近い事も重なり、学術集会やレクリエーション等の参加者も多く、地区会の懇親を含め活発に活動しております。

来年度は診療報酬改定の年で、DPCと包括ケア病棟の括りやベッド数との兼ね合いなど気になるところです。

また臨床検査技師の介護を意識した業務も考えて行かなくてはと思っています。

最後になりますが、本年も関信支部の発展と会員皆様のご多幸と益々のご活躍を祈念しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

群馬地区会会長……………土 井 誠 一



新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

今年は、昨年のラグビーワールドカップに引き続き、東京オリンピック・パラリンピックが開催され各種競技会場が一丸となって盛り上がる事でしょう。

群馬地区会では、昨年3月に学術活動として「乳がんについて：超音波検査操作方法と病理組織分類」、「下肢血管超音波検査の進め方と血栓症ならびに凝固検査について」と題し講義と

実技講習を開催いたしました。参加者25名が真剣に講師の方に質疑されていることに頼もしく思えた研修会でした。6月にはレクリエーションを開催し、参加者26名、絆を深めることができました。

昨年の11月23日の定期総会にて承認された役員も引き続き一丸となって地区会活動に取り組んでいきたいと考えております。

最後に本年も関信支部の発展と会員の皆様のご活躍、ご健勝を祈念申し上げまして、新年の挨拶とさせていただきます。

埼玉地区会会長……………永 井 信 浩



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、穏やかな新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。さて、埼玉地区会も昨年で第6回定期総会を迎えることができました。これも会員と先輩方の協力のおかげで作り上げられてきたことを想い、更に充実した楽しい地区会にしていきたいと考えております。

今回、学術研修では国臨協関信支部学術委員会輸血部門阿出川裕子先生に「輸血」についてご講演をお願いして頂きました。

この講演を聴講し、あらためて輸血による重要性について再認識いたしました。埼玉地区会の特徴として地区会情報誌「NEW FACE」を毎年発行しております。これは新しく地区会の仲間になった会員の紹介した情報誌です。ぜひ関信支部の方々にもホームページをご覧いただけたら幸いです。地区会として、若手技師の更なるスキルアップ推進や検査部門の技術向上に取り組んでまいりますので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

最後になりますが、今年も関信支部の発展と会員一人ひとりのご健康とご活躍を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

千葉地区会会長……………益 田 泰 蔵



新年あけましておめでとうございます。関信支部会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年は台風・豪雨による被害が各地で発生し、被災された会員の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

千葉県においても、最大瞬間風速50mを越える過去最強クラスの台風15号が9月9日未明に上陸し、停電や断水、倒木など甚大な被害が出ました。朝になると出勤できない職員も多く、限られた人数の中で、診療に影響が出ないように努力されたことと思います。我々医療に従事するものが果たすべき役割の大きさを感じました。

昨年の千葉地区会活動は、5月に文化活動として東京ドームでの巨人対広島戦の野球観戦を開催し、多くの会員が白熱する試合を観戦するとともに両チームに大きな声援を送りました。野球観戦後の懇親会も大いに盛り上がったことは言うまでもありません。7月には令和元年度第38回地区会総会研修会を開催しました。また関信支部学会地区会コーナーでは「千葉地区会笑顔が自慢です!」と題して、会員みんなの笑顔の写真や新入会員の紹介を掲載しました。惜しくも賞は逃しましたが素晴らしいポスターが出来上がりました。

今年も千葉地区会の目的である会員の学術及び技術の向上と会員及び施設相互の交流、親睦をはかるために、文化活動や研修会を企画していきたいと考えています。

最後に、関信支部の益々の発展と、会員皆様のご健康とご活躍を祈願いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

東京地区会会長……………上 條 敏 夫



新年明けましておめでとうございます。

国臨協関信支部会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

さて、東京地区会では第6回定期総会により今年度の事業方針ならびに新役員の承認が得られました。東京地区会には国立病院機構施設をはじめ国立高度専門医療研究センター、国立ハンセン病療養所と異なる診療機能や設備・環境を持った施設が5施設、127名程の会員がおります。研修会や文化交流会等を通じて情報を交換し、少しでも会員相互の親睦がより深めていければと考えております。

昨年、ラグビーワールドカップ日本代表の活躍が日本中を熱くし、そこでの合言葉は「ONE TEAM」でした。チームワークの大切さを再認識し、まさに職場での業務や協議会等の活動においても共同体意識を高め、立ち塞がる壁や困難な課題に皆で協力して対応することが肝要であると感じています。

本年はオリンピックイヤーとしての話題が多い中、我々も明るく前向きに新たなチャレンジをしていきましょう。

最後に、本年が会員の皆様にとって素晴らしい年になりますよう心より祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

東京・山梨地区会会長……………永 井 正 樹



新年あけましておめでとうございます。会員みなさまにおかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年の7月総会において会長の大役を仰せつかりましたが、任期を残して定年退職となりますことをまずはお詫びしなければなりません。

昨年は台風被害が多く、特に関東甲信越地区においては甚大な被害が発生した地域も多く、被災された方々には心よりお見舞いを申し上げます。地球温暖化に伴い、我が国の気候も徐々に変化しており、変化への対応が求められています。みなさんもすでにご存じのように、我々臨床検査技師の仕事にも様々な変化が生じています。AIやロボット技術も実用化が迫っており、画像診断分野においてもAIの利活用に向けて様々な研究が進められています。そのような変化を我々がどのように捉え、どのように対策を講じるのか、真剣に考える時期に来ていると思います。今年はそのようなことに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

神奈川地区会会長……………山 田 大 助



新年明けましておめでとうございます。関信支部会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。神奈川地区会は5施設67名の会員数となっております。地区会では昨年度同様にレクリエーション、親睦会を通して会員相互の情報交換や親睦を深めるべく活動して参りたいと思っています。昨年はラグビーワールドカップで日本中が盛り上がりました。フェアプレーの精神に感動した方も多いの

ではないでしょうか。今年はいよいよ東京オリンピック、パラリンピックの年。実際に足を運ばれて観戦される方も多いのではないかと思います。7人制ラグビーも競技に入っているので、ワールドカップ同様盛り上がってほしいと願っています。

今年も盛り上り必至の東京五輪・パラ同様に神奈川県地区会を盛り上げていきたいと考えていますので皆様のご協力をお願い申し上げます。

最後に、関信支部の益々の発展と、会員皆様のご健康とご活躍を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

新潟地区会会長……………渡 辺 靖



新年明けましておめでとうございます。新潟地区会を代表して関信支部会員の皆様には新春のお喜び申し上げます。

昨年の地区会活動の目玉は、関信支部学術委員会一般部門の田原彩華先生をお招きし、「尿沈渣について～夜間・休日時の尿沈渣の見方～」というタイトルでの研修会でした。

スペシャリストならではの内容の講演を外部から講師を招聘することなく、身内から聞ける気軽さに学術委員会の存在価値を見た気がいたしました。

さて、第74回国立病院総合医学会は、10月16日（金）～17日（土）に新潟市で開催されます。関信管内での開催なので、会員の皆様には例年以上の演題発表にて学会を盛り上げていただければ幸いです。新潟といえば“米どころ”“酒どころ”“海の幸”。学会で“頭は満足”、グルメで“お腹も満足！”というのは、いかがでしょうか。皆様の来県を心よりお待ちしております。

最後に皆様のご健康とご活躍を祈念し、新年の挨拶といたします。

長野地区会会長……………平 原 博 美



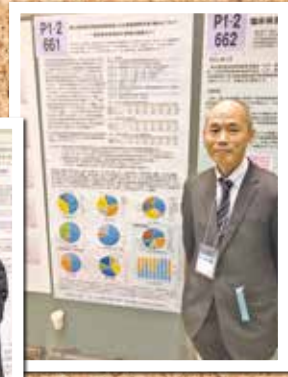
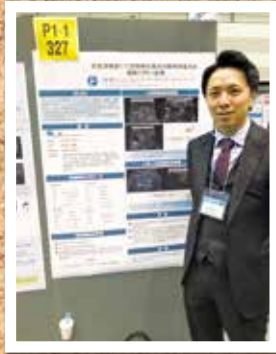
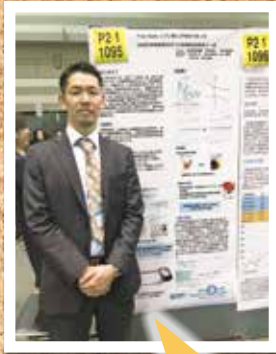
新年おめでとうございます。関信支部会員の皆様におかれましては、穏やかな新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。「令和」には人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つという意味が込められているのだそうです。昨年も自然の厳しさを思い知らされるような災害が幾度もおこりました。こんな時こそ人々は心を交わし合いひとつになり、不可能を可能にかえる力を生み乗り越えていくのでしょうか。自然環境の変化や現代が抱える問題を想定し直して危機管理に活かしていくことが重要と考えます。新しい令和という時代をどのように創り上げていけるか楽しみです。

さて、長野地区会は6月の総会にて新執行体制がスタートしました。何かと慌ただしい時期での準備でしたが、地区会員にもご協力いただき総会は活発な討議となり、研修会・懇親会と貴重な時間を過ごせました。長野県は信州・信濃の国ともいわれ南北に220キロと長く、雄大な山々に囲まれ8つの県に接する交流の要です。北信にある東長野病院から中信のまつもと医療センターまでは90キロほどあります。東信にある信州上田医療センター・小諸高原病院が中間地点となります。都心への利便性はそう悪くはないものの、やはり現実に都心での研修会参加はそう簡単ではありません。幅広く知識・技術を習得できるよう学術面のサポートについて関信支部にもご協力を仰ぎながら検討していきたいと考えます。

ラグビーワールドカップに沸いた昨年以上に今年はオリンピックで盛り上がりましょう。

最後に関信支部会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念して新年の挨拶とさせていただきます。

第73回国立病院 参加して

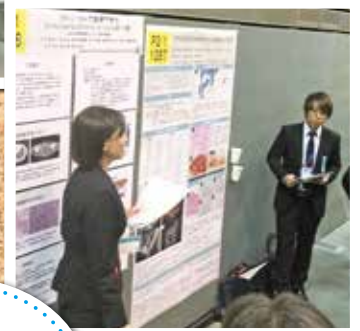
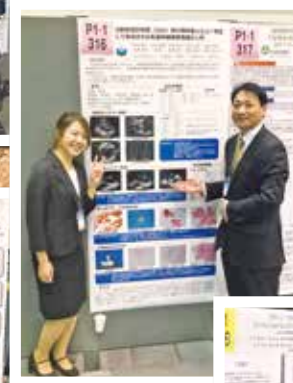
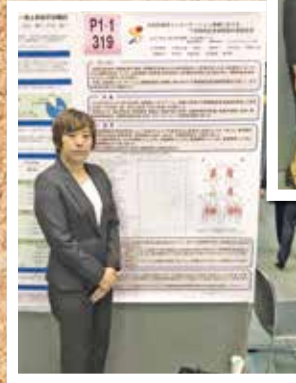


ベストポスター賞を受賞して

NHO 甲府病院 木津谷 亮

第73回国立病院総合医学会において「FreeStyleリブレの導入が有用であった心因性摂食障害を伴う2型糖尿病患者の一例」を発表させていただき、ベストポスター賞を受賞いたしました。FreeStyleリブレは皮下に挿入したセンサーが間質液中のグルコースを経時的に測定し、即時に患者にデータとして提供できるため、QOLの向上に役立つと思います。今後もこのような症例を積み重ねて報告することで、保険適応拡大の一助になればと思います。

ご指導ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

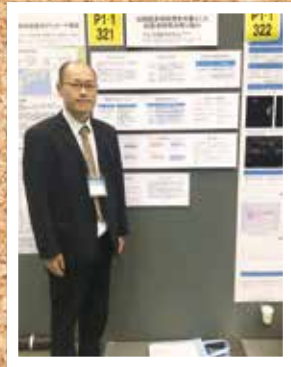


交流会に参加しました。

名古屋港水族館
イルカショー



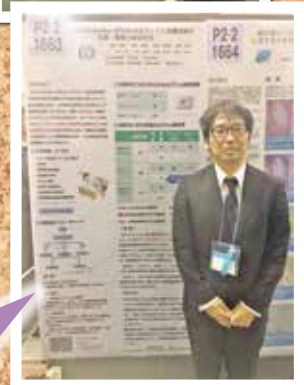
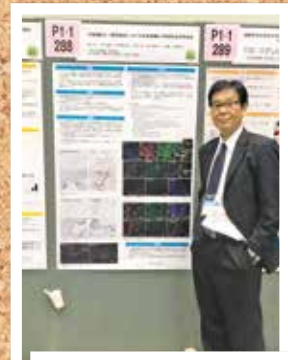
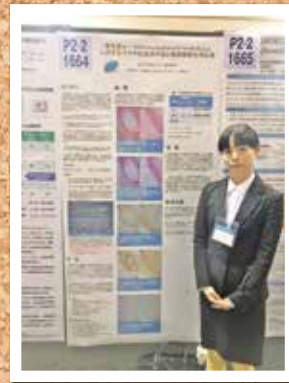
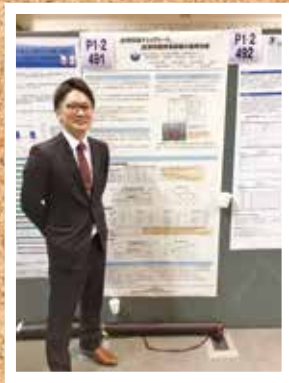
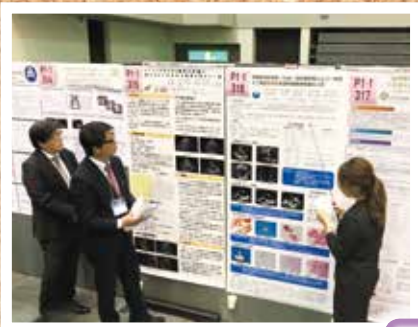
院総合医学会に きました



ベストポスター賞を受賞して

NHO 高崎総合医療センター 藤本 敬久

第73回国立病院総合医学会において「当院臨床研修医を対象とした超音波研修の取り組み」と題し、平成29年度から生理検査室で取り組んでいる超音波研修についてポスター発表をしてきました。この取り組みは前技師長である東京病院の峰岸技師長の発案で開始された取り組みで、十分な研修を受けないまま救急外来等で超音波検査を行っている臨床研修医に装置の取り扱い方法や基本走査を習得してもらおうと開始されたものです。今回、ベストポスター賞をいただき、大変光栄に思います。今後も取り組みを継続し、より良い研修にしていきたいと考えています。



ベストポスター賞を受賞して

NHO 甲府病院 福富 健司

11月8日～9日に名古屋で開催された第73回国立病院総合医学会において、「*Clostridioides difficile* 迅速キットと培養検査の抗原・毒素の検出状況」を発表し、ベストポスター賞を受賞しました。今回の検討では、培養で発育した菌株を用いることで菌が産生する毒素の検出率が向上することを確認できました。発表時には、技師長をはじめ職場の先輩や関信支部の皆様にも囲まれ落ち着いて発表することが出来ました。学会発表に際しご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。



第74回 国立病院総合医学会に向けて



NHO 西新潟中央病院
渡 辺 靖

国臨協関信支部特任理事の渡辺です。この度は、国立病院総合医学会とその準備などについて、簡単ではありますが、紹介させていただきます。

総合医学会は、診療部門のみならず、事務部門も合わせた多職種が一同に会す文字通り“総合”的な学会で、私達が頻繁に参加する臨床検査の学会や専門学会とは、趣が異なり、病院間の取り組み発表のニュアンスが強い（個人的な感想ですが）学会です。機構内のグループ持ち回りで年1回開催されます。昨年、名古屋市で開催された第73回は、東海北陸グループ、その前年の神戸市開催の第72回は、近畿グループという具合です。私達が所属する関東信越グループ担当は、第68回の横浜市開催にさかのぼります。また、学会前日に各種協議会などの関連会議も併せて開催され、臨床検査部門では、国立病院臨床検査技師協会全国支部長会議、国立病院臨床検査技師協会定期総会、国立病院臨床検査技師長協議会総会など、計5会議がこれに該当します。

さて、本年度は、関東信越グループ担当で、10月16日（金）、17日（土）の2日間、新潟市で開催されます。

事務局を会長施設の新潟病院に置き、西新潟中央病院とさいがた医療センターの新潟県内3施設と東京医療センターの4施設で運営に当たります。また、検査部門の関係会議は、国臨協関信支部が担当となります。私が仰せつかった特任理事は、支部活動の中でもこの関係会議の準備に特化して働く（すなわち特任）役割です。まず、関係会議の事前準備を簡単に紹介します。会場（ホテル）予約、関係者の宿泊場所の確保、懇親会および二次会運営が主な内容で、すでに第72回神戸学会直後から動きだしています。今回は、岩崎支部長、椎名事務局長とともに名古屋での関係会議の視察を行いました。内容は、会場の広さ、定期総会や懇親会、二次会などの参加人数の把握、会場内でのドリンク準備、懇親会の料理・アトラクションなどです。今後は、視察状況を踏まえ、会場との具体的な打ち合わせやアトラクションの検討などの作業に入ります。今回は、支部としての視察目的で学会に参加するはずが、施設から「どうせ学会に行くのなら学会そのものの視察もお願い！」と開催数日前に視察メ

ンバーに入ってしまった。本年度の学会準備は、かなり前から始まっているのですが、コアメンバー以外の各施設職員（いわゆる実働部隊）の仕事は、現地視察という形で動きだしました。新潟県内3施設間でシンポジウム、ポスター、受付、クロークなど視察箇所の割り振りがあり、さらに施設内のメンバー間で視察箇所が割り振られます。私は、シンポジウムを担当し、計17のシンポジウムの視察を行いました。要点は、各会場の広さと入場者数の把握です。例えば、「あるシンポジウムに500人収容の部屋を割り振ったのに1割程度しか入っていなかった。」とか、逆に「100人収容の部屋を割り振ったのに立ち見がいた。」などのチェックです。要するに今年度のシンポジウム内容とそれに見合う部屋割りの参考資料集めです。内容がマニアックになるほど入りは悪く、多職種が一同に会す内容や看護関連のものは、多くの人が参加する傾向にありました。

3日間、会場に缶詰めとなり、ひつまぶしも名古屋城も熱田神宮も持ち越しになったことをお伝えして、締めたいと思います。

令和元年度主任臨床検査技師育成研修に参加して



NHO 栃木医療センター
林 陽 介

令和元年11月1、2日の2日間にわたり、国立病院機構本部研修センター大教室において令和元年度主任臨床検査技師育成研修が開催されました。次世代を担う主任臨床検査技師の意識改革を推進し育成することを目的とされ、若手主任技師、または候補者選考に合格した技師が参加しました。研修はまず講義をうけ、講義のテーマに沿ったグループディスカッション、また1分間スピーチなどが行われ、普段会議などで発言することの少ない私にとって刺激的で充実した2日間の研修でした。

1日目は「コミュニケーションについて」、「職場環境改善、ワーク・ライフ・バランスについて」というテーマで講義、グループディスカッションが行われました。コミュニケーションについて改めて考え、意見を交換し合う良い機会だったと思います。また職場環境改善では投下時間分析シートをもとにディスカッションをしました。日常的なタイムスケジュールを箇条書きにすることで、タイムマネジメントについて考える非常に有効なツールだと感じました。

2日目には「改訂キャリアパスの重要性」、「業務統計とベンチマークについて」の講義、グループワークを行いました。キャリアパスの重要性については次世代を担う技師育成が急務であり、NC、NHO、ハンセン療養所など多様な病院があるなかで統一したキャリアパスが作れるかどうかなどをディスカッションしました。私の班では病院規模で分けた方がよいのではないかという意見になりましたが、人材育成の項目が具体的で自施設では学べないものも多く、まずは全員が使ってみる事が大切ではと思いました。

今回研修を受けて、知らなかった知識や新たな方法がたくさんありましたが、これらを実際に活用できる主任技師になりたいと思いました。最後にこのような研修を企画、運営して下さいました国立病院臨床検査技師長協議会及び関東信越グループの皆様にご心よりお礼申し上げます。



令和元年度主任臨床検査技師育成研修に参加して



NHO 西埼玉中央病院
田 嶋 麻 由

令和元年11月1日、2日の二日間、国立病院機構本部において令和元年度主任臨床検査技師育成研修が開催されました。

主任になり約半年経ちましたが、主任としての役割や業務が自分の中で明確ではなく、今回の研修で学べることが多いのではないかと考え、参加させていただきました。

また、グループワークが多い研修でもあり、他施設の主任技師と交流する中で得られるものがあるのではという思いもありました。

今回の研修の中で、「コミュニケーション」の重要性やワークライフバランスを実現するために必要な「タイムマネジメントスキル」などの項目は、自分自身にとっても有意義な講義でした。その後のグループワークでも、他施設の状況や取り組んでいる事案など参考になる事が多々ありました。

特に技師ではなく主任として、今までとは違う立場でのコミュニケーションの取り方には、配慮が必要であると感じました。話し方や言葉口調に気を付けないと、相手に伝わらなかったり不快な思いをさせてしまうことに

なり、結果として信頼関係を構築できないのだと思いました。

また、「確認すること」もコミュニケーションのひとつである事に気付かされた点でもあります。

改定版キャリアパスについては、後輩技師の理解度を把握できるととても良いツールですが、その一方で自分が「達成できている」と自信を持って評価できるのかが自分の課題と感じました。

今回の研修では多くの事を学び、自分を振り返る良い機会になりました。

まずは自分のスキルを向上させることが一番の課題と感じたので、今後は自己研鑽を怠らないよう努力していきたいと思います。

最後になりましたが、今回研修を企画・開催して下さいました国立病院臨床検査技師長協議会、関東信越グループ担当者の皆様、また多忙の中研修に参加させて頂いた職場の皆様に、感謝申し上げます。



コラム

『救急対応の大切さ』

NHO霞ヶ浦医療センター 若 林 弘

もし、あなたの目の前で突然人が倒れたら、最初に何をすべきか知っていますか？

あなたは適切な行動がとれますか？

医療従事者である我々にとって、救急医療を知ることとはとても大切なことです。

各地域の消防署が定期的に「救命救急講習」を行っているのはご存知ですか？

家族や友人など自分に大切な人の「万が一」を守るためにおこなわれています。

その講習の中に「救命の連鎖」という言葉が出てきます。

1. 心停止の予防
2. 早期認識と通報
3. 一次救命処置（心肺蘇生とAED）
4. 二次救命処置と心拍再開後の集中治療



「救命の連鎖」とは1から4までの行為を、現場に居合わせた一般の方々による救命処置から、医療従事者による救命処置まで連鎖させて途切れさせないという意味です。

このうち、1から3までは一般の方々が行う講習内容になっていて、それらを「救命救急講習」で学びます。東京消防庁がおこなった調査に「周囲の人が急病やケガをしたとき、あなたができる応急手当を選んでください」とい設問がありました。前述の講習受講の有無で、一般の方々にできる応急処置に差があったという内容でした。受講者が“できる”と答えた割合が高い項目は、「AEDの使用」「胸骨圧迫（心臓マッサージ）」「人工呼吸」でした。

では、医療従事者である我々はどうでしょうか？

採血室や生理検査室、病院内の廊下などで、患者さんが意識を消失し「目の前で突然人が倒れる」場面に遭遇したら、あなたは最初に何をすべきかご存じですか？

我々医療従事者は、病院内の研修で「BLS（Basic Life Support）講習」を定期的に受講していると思います。また、救命処置が必要な場面に遭遇したらどのよう

に対応すればよいのかを記載した「手順書」や「マニュアル」も準備されていると思います。しかし、実際にその現場に遭遇してみると、怖くて他人事のような対応になってしまい迅速な対応ができないかもしれません。

なぜなのでしょう？ 私たちの心は、予期せぬ異常や危険に対してある程度、鈍感にできています。日常生活で何か変わったことが起きるたびに、いちいちビクビク反応していたら心が疲弊してしまうからです。ある限界までの異常は、正常の範囲内として処理する心のメカニズムを「正常性バイアス」といいます。しかし、私たちの心を守るための機能「正常バイアス」が非常事態の際には、「まだ大丈夫」と危険を過小評価してしまうことで、我々を傍観者へと導いてしまうようです。

検査の現場で患者さんが突然倒れたら、「正常バイアス」に左右されずに私たちに最大限出来ることは、「救命の連鎖」の中の1. 心停止の予防、2. 早期認識と通報、3. 一次救命処置（心肺蘇生とAED）の対応をおこないながら、医師・看護師にバトンを繋ぐことではないでしょうか。

具体的には心肺停止後、2分以内に心肺蘇生が開始された場合の救命率は90%程度となりますが、3分後には75%、4分後は50%、5分後には25%程度、そして10分後には0%と時間が経過するほど低下します。

実際にこのような現場に居合わせた場合、医師・看護師にバトンを繋ぐまでの間、その現場で対応を求められるのはあなただけです。医療従事者としてしっかり救急医療を学び、身体が自然と動けるように皆で何度でもシミュレーションに基づくトレーニングを行い、「正常バイアス」の調整をしておく事が大切ではないでしょうか！

ガイドラインでは、①まず倒れた人へ『『どうしました？』と軽く肩を叩いて反応を確かめる。②反応がなければ、次に呼吸をしているかどうか10秒以内に確認する。③呼吸をしていなければ即座に心臓マッサージ（胸骨圧迫）を開始してください。』と記載されています。

みなさん！ 目の前で倒れている人を救えるのは『あなた』です。常にリスクを念頭に、躊躇せず判断・行動に移せるよう日頃から心掛けていきましょう。

関信支部では、2月に「救急医療関連」の症例検討会を開催いたします。奮ってご参加ください。

地区会だより

群馬地区会交流会に参加して



NHO 渋川医療センター
國 光 奏 江

令和元年6月2日（土）、沼田市にある原田農園にて、関信支部群馬地区会交流会が開催されました。当日は気持ちよく晴れ渡る空のもと、いちご狩りとバーベキューを行いました。いちご狩りでは暑いビニールハウスの中に入り、農家の方の思いがこもった赤くおおきな苺を口いっぱい頬張りました。また、お子さんも複数人参加しており、大きな苺を探し比べ、楽しそうにはしゃいでいたのが印象的でした。それぞれ満足のいくまで時間いっぱい苺を堪能した後、場所を室内に移し、バーベキューを行いました。バーベキューでは、たくさんの野菜や肉、さらに鍋いっぱいのきのこの味噌汁が用意されており驚きを隠せませんでした。どの具材もととてもおいしく、賑やかな雰囲気の中で会話が弾

みました。終盤にはデザートにパフェ作りもあり、お腹一杯になるまで食べつくしました。最後に、群馬地区会交流会に初めて参加された方の紹介がありました。その中には新人研修で同じ班になった方もおり、改めて話すことができて嬉しく思いました。

私は今年の4月に採用され、初めて群馬県に来ましたが、はじめての土地、知り合いのいない土地ということでもとても不安でいっぱいでした。このような交流会で他施設の方や同じ職場の方ともさらに親睦を深めることができとても有意義な時間となりました。また、たくさんお話をしていく中で、これから私自身がどのようにありたいかを考える機会にもなりました。日々の業務の中で問題意識をもち、自分自身の目標を明確にしていきたいと思います。最後になりましたが、群馬地区会を開催していただいた地区会役員の方々に心からお礼を申し上げます。



新潟地区会交流会に参加して



NHO 西新潟中央病院
森 田 千 穂

令和元年7月22日、新潟地区会交流会（担当：西新潟中央病院）が開催されました。内容は新潟市内にある酒蔵 今代司（いまよつかさ）酒造見学と関屋浜でのバーベキュー大会でした。

新潟県は、およそ南北に長く、施設間での移動距離約100kmのなか、会員14名の参加があり、当日の朝、今代司酒造に集合しました。

まず、酒蔵のお店で、お酒や珍味を試食し、各々お気に入りの品を購入。特に酒蔵おすすめの味噌ソフトクリームは絶品でした。

酒蔵見学では、創業1767年以来行われてきた酒造りの方法や、使われてきた道具などを見学し、現代の酒造りまでの歴史を学びました。



その後、西新潟中央病院にほど近い関屋浜海水浴場の海の家へ移動し、竹内会長の乾杯の挨拶で親睦会が始まりました。トリ、豚、牛肉はもちろんジンギスカン、カモ肉など肉多めのバーベキューに、大満足でした。肌寒く感じられた梅雨空の気候でしたが、参加者の熱気で次第に体感温度も上がり、蒸し暑く感じられるほどでした。遠くに佐渡島が見え、きれいな海を見ながらのバーベキューはまた格別なものがありました。

バーベキューの途中、かめめがじーっと肉を見つめていたため試しに肉を放ると空中でうまくキャッチするというサプライズもあり一同大興奮、特に急遽参加させていただいた息子はとても喜んでいました。

会員同士、普段なかなかお会いする機会はありませんが新潟県内施設の方々と親睦を深めることができとても有意義な交流会となりました。

お忙しい中、この会を企画してくださった幹事役員の方々にとても感謝しています。



会員のひろば



国立がん研究センター中央病院
吉 田 和 広

私の趣味はサーフィンです。今回はオリンピックの新種目にもなり、今注目されているサーフィンの魅力について皆様を紹介したいと思います。

4年前、海の近くに引っ越したことがきっかけで、サーフィンの体験レッスンに入りました。それから月に一回、レンタルのサーフボードでサーフィンを初めました。もともと体を動かすことが好きだったため、すぐにサーフィンの楽しさに夢中になってしまいました。初めてから半年が経ち、サーフィンの難しさが分かってきた頃に、新婚旅行でハワイに行く機会がありました。ハワイといえばサーフィン発祥の地とも言われ、絶好のサーフポイントがたくさんあります。最初はハワイでサーフィンをするつもりはありませんでしたが、好奇心を抑えることができず、2日目の朝だけサーフィンをすることにしました。日の出とともに起床し、ワイキキビーチに向かいました。前日にレンタルしたサーフボードとともに海に入り、パドリング（腕を回して漕ぐ動作）を始めました。しかし、いくらパドリングをしてもサーフポイントまでが遠く、なかなか辿り着きません。打ち寄せる波に何度も戻されながら、必死にパドリングをして、ようやくポイントに到着しました。そして岸の方を振り返るとエメラルドグリーンの海の上に、ワイキキのホテル群と、朝日に照らされたダイヤモンドヘッドがそびえ立っていました。パドリングをしてこの場所まで来た人だけが見られる景色であって、前に遮る建物がないせいか、ダイヤモンドヘッドがより際立って見えました。あの時の感

動は今でも心に刻まれています。そしてワイキキの波は穏やかで、優雅にサーフィンを楽しむことができました。そしてそこから本格的に私のサーフィン人生が始まり、まずウェットスーツとファンボードというサーフボードを購入しました。サーフボードは板の長さによって3種類に分けられます。長いものからロングボード、ファンボード、ショートボードがあり、同じサーフィンでも楽しみ方、波の乗り方が異なります。ロングボードでは波の動きに合わせ、岸に向かってゆっくり滑走します。一方、ショートボードは波の上を自由に動き回り、技を行います。そしてロングボードの安定感とショートボードの操作性を兼ね備えた板がファンボードです。ちなみに今回のオリンピックで採用されたのはショートボードでした。

サーフィンという趣味ができたことで、日々の過ごし方も変わりました。今までは平日に終わらなかった仕事を休日に持ち越すこともありましたが、今は週末にサーフィンに行けるように、通勤時間を活用するなどの工夫をして生活するようになりました。そして金曜日の夜は遅くまで飲みすぎることがないように早めに帰宅し、翌日の朝に備えるようになりました。サーフィンを始めたことで、時間を有効的に活用しようとするため、以前よりも規則正しい生活ができていると思います。

今は職場の先輩と海に行くことが多く、波の動きやサーフィンのマナー、サーフボードの特性を教えてもらいながらサーフィンを続けています。まだまだ初心者ですが、サーフィンをやっている方がいたら、ぜひお声かけいただきたいです。交流の輪を広げられたらと思います。



* 関信支部よりお知らせ *

令和元年秋の叙勲におきまして、元国立がんセンター東病院臨床検査技師長 秦 政行氏が保健衛生功労者として瑞宝単光章を受章されました。

秦 政行氏のこれまでのご功績を讃えるとともに、国臨協関信支部会員一同、心よりお祝い申し上げます。

令和元年11月7日（木）国立病院臨床検査技師協会定期総会が愛知県名古屋市で開催され、関信支部より推薦の国立国際医療研究センター病院臨床検査技師長 永井 正樹氏ならびにNHO東京医療センター臨床検査技師長 渡邊 清司氏に、永年の功績に対しまして表彰状および副賞が授与されました。

益々のご健勝をお祈りしますとともに、さらなるご指導を賜りますようお願いいたします。



令和元年度 合同交流会のお知らせ

日 時：令和2年4月25日（土）

場 所：新宿ワシントンホテル

* 同日は国立国際医療研究センター病院において関信支部定期総会および第1回研修会を開催する予定です。詳細につきましては後日お知らせいたします。

令和2年度国臨協関信支部 役員公募のお知らせ

役員推薦委員長 佐 藤 成 彦
役員推薦委員 瀬 下 明 子
役員推薦委員 久 間 修 平

令和2年4月の国臨協関信支部定期総会において役員の改定を行います。

つきましては、国臨協関信支部役員推薦規定第3条により役員を公募いたします。

公募用紙は関信支部HPの『関信支部とは／関信支部規約類』より「関信支部役員応募・推薦届出用紙」をダウンロードし、必要事項をご記入の上、以下の提出先に郵送またはメールにて書類を提出してください。なお、自薦であっても会員1名の推薦人（役職は問わない）を必要としていますことを申し添えます。

締め切り：令和2年2月28日（金）

提 出 先：〒208-0011

東京都武蔵村山市学園2-37-1

独立行政法人国立病院機構 村山医療センター
臨床検査科 佐藤 成彦

E-mail：sato.naruhiko.vs@mail.hosp.go.jp

国臨協関信支部今後の予定

月	日	曜日	今後の予定
1月	18日	土	地区代表者会議
2月	22日	土	症例検討会
4月	25日	土	第48回定期総会・第1回研修会・合同交流会

* 予定は変更となる場合がありますのでご了承願います。

人 事 異 動

【令和元年10月24日付 退 職】

氏 名	旧施設名	旧職名
岡 崎 香 純	国立がん研究センター東病院	技 師

【令和元年10月31日付 退 職】

氏 名	旧施設名	旧職名
佐 藤 俊 行	N H O 相 模 原 病 院	技 師 長
臺 あさみ	N H O 相 模 原 病 院	技 師

【令和元年11月1日付 採 用】

氏 名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
中 谷 道 昭	N H O 相 模 原 病 院	技 師	N H O 信 州 上 田 医 療 セ ン タ ー	非常勤
笹 森 菜 月	N H O 西 埼 玉 中 央 病 院	技 師		
鈴 木 良 枝	国立成育医療研究センター	技 師		
中 津 志乃美	国立精神・神経医療研究センター病院	非常勤		

【令和元年11月1日付 配置換え】

氏 名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
橋 本 未 来	N H O 東 京 医 療 セ ン タ ー	技 師	国立成育医療研究センター	技 師

【令和元年11月15日付 退 職】

氏 名	旧施設名	旧職名
工 藤 賢 大	N H O 東 京 医 療 セ ン タ ー	技 師

【令和元年11月30日付 退 職】

氏 名	旧施設名	旧職名
古 賀 裕	N H O 埼 玉 病 院	副技師長

令和元年度 国臨協関信支部主催 症例検討会のお知らせ

日時：令和2年2月22日（土）13：30～

場所：国立国際医療研究センター病院 研修センター棟5階
大会議室

内容：＜第1部＞

症例検討会

講師：国立国際医療研究センター病院 中央検査部門

＜第2部＞

『救急医療の現場が臨床検査技師に求めること』

講師：国立国際医療研究センター病院 救急科

第二救急科医長 小林 憲太郎 先生

編 集 後 記

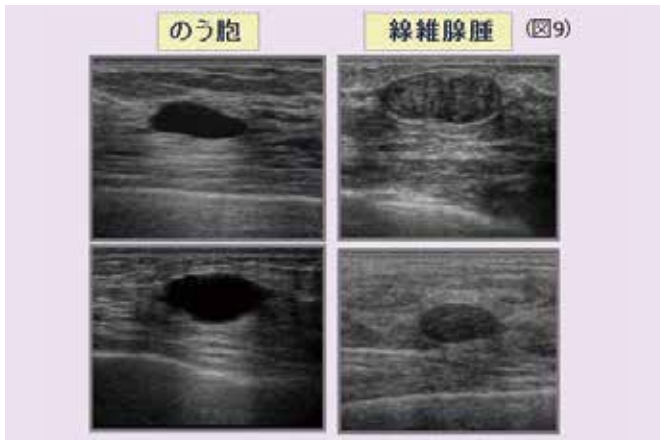
新年明けましておめでとうございます。お正月はいかがお過ごしだったでしょうか。さて関信支部ニュース220号は「新年を迎えて」と題して、昨年の心に残った出来事や、今年の抱負等を投稿して頂きました。今年は子年という事で、再び新たな十二支のサイクルがスタートする年という事もあり、より一層節目感の強い年に感じられます。関信支部としましては国立病院総合医学会が新潟で開催される等、例年とはまた違った特別な年になりそうな予感がしています。本年も会員の皆様のご協力を頂きながら、会員の皆様と共に関信支部を盛り上げていきたいと理事一同考えております。本年もどうぞよろしくお願いいたします。 広報部：竹 内

覚えよう 身につけよう 検査技術!

乳がんの現状と超音波検査

生理部門 NHO東京医療センター 石川 明子

【第218号からの続き】 《乳房疾患の超音波像》

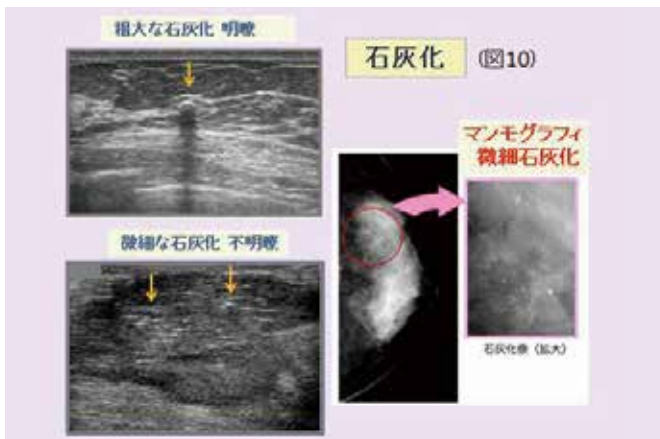


【のう胞】

内部は無エコー、形状は円形および楕円形、境界明瞭、後方エコーを伴う。病理学的には乳腺症の部分症である。

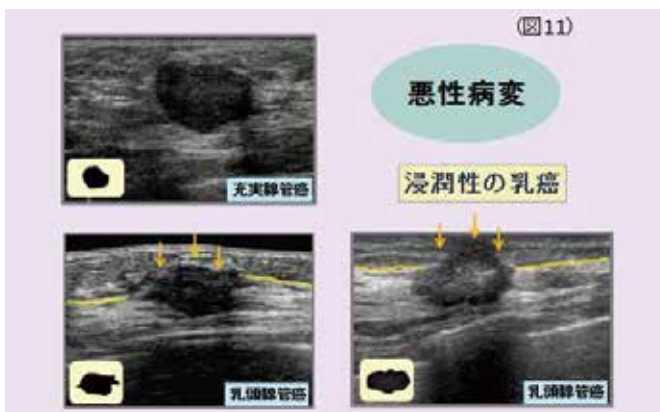
【線維腺腫】

間質結合組織と上皮成分の増殖性良性腫瘍。形状は円形および楕円形、境界明瞭、内部は均一でエコーレベルは低～等と様々である。陳旧性線維腺腫では石灰化を伴うことが多い。



【石灰化】

生成機序から、石灰乳石灰化・分泌型石灰化、壊死型石灰化に分類される。カルシウム沈着を主体とし、超音波では高エコーとして描出され、粗大なものは後方エコー減弱を伴うことがある。微細な石灰化集簇像は悪性腫瘍に見られるガン細胞壊死により生じた石灰化を疑う所見である。

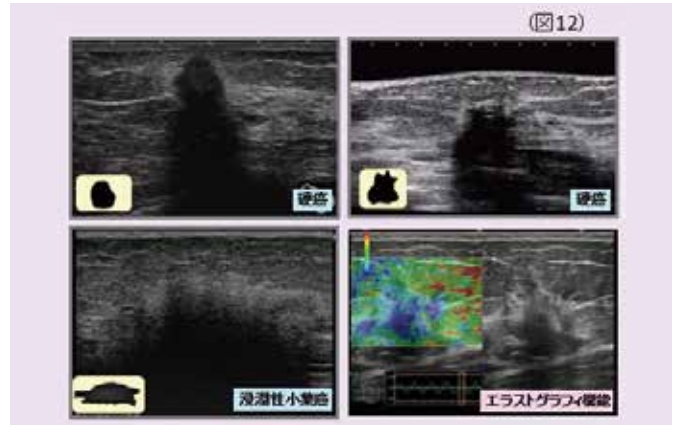


【乳頭腺管癌】

乳管を形成する腺上皮が乳頭状増殖をしたもので、進展形式は乳管内進展を主とする。形状不整、辺縁粗雑、内部不均一でしばしば微細石灰化を伴う。後方エコーは増強から減弱まで様々である。図11の画像では前方境界線（黄色い線）の断裂を認め、皮下脂肪層に浸潤している。

【充実腺管癌】

乳管腺上皮の充実性膨張性増殖を特徴とする。細胞が高密度に存在するため、透過性が良く後方エコーは増強することがある。代表的な超音波所見としては、膨張性増殖を反映し比較的整で周囲との境界が明瞭な腫瘤像、前項の乳頭腺管癌に比較して縦横比がやや大きいことが挙げられる。

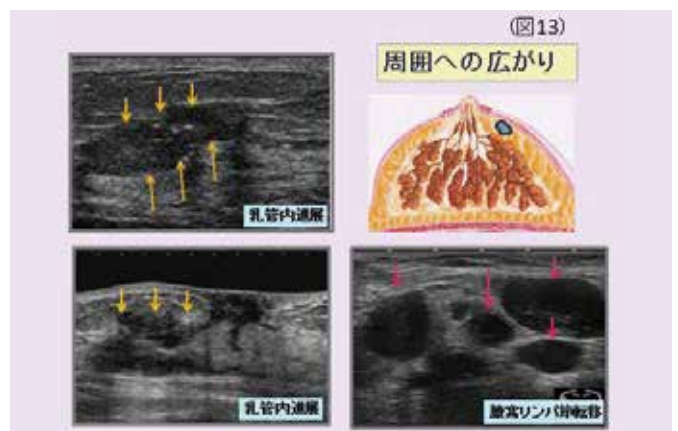


【硬 癌】

間質の線維増成が強いのが組織学的特徴であり、管内進展よりも管外への間質浸潤が強い。豊富な膠原線維のため減衰が強く、エコーの減弱や欠損を生じる。代表的な超音波所見として形状不整、辺縁粗雑、縦長の腫瘤像、後方エコー減衰、境界部高エコー（halo）が挙げられる（図12）。

【小葉癌】

通常乳癌が乳管上皮に由来するのに対して、小葉上皮を発生母地とした癌である。組織学的にも前項の硬癌に近似しており、形状不整で時に腫瘤像非形成性を呈し、乳腺症との鑑別が重要となる。後方エコーの減弱を伴い、硬癌よりも横断エコー像を示すことが特徴とされる（図12）。



乳房の腫瘍性病変の良悪性を判断する上で、周囲組織への広がりやリンパ節腫大やリンパ節門の消失は重要な所見となり得る（図13）。



【非浸潤性乳管癌】

乳管由来の癌細胞が乳管内小葉管内にとどまってい間質への浸潤がみられないもの。図14では不整な低エコーが存在し、内部に石灰化を反映した点状高エコーを散見する。前方境界線は保たれており浸潤は認めない。

参考文献

- 1) 松江寛人、岩下淨明：乳癌超音波診断法。金原出版株式会社2002
- 2) 日本乳癌甲状腺超音波診断学会：乳房超音波診断ガイドライン第3版。南江堂2014